

## 【自治活動部会】

### 「行事活動を通して、生徒たちは大きく成長していく」

2009年1月、県内公立高校生徒会担当の先生方を対象に「生徒会活動の指導に関するアンケート」調査を実施しました。群馬県高等学校教職員組合「ぐんま教育のつどい」・自主活動分科会と共同して、高校における生徒会活動とその指導のあり方についての研究を始め2年目に入ったところです。「授業時数確保」「行事精選」などが常に話題に上る一方で、生徒たちの自主的な活動力に対する不安が聞かれる学校現場で、生徒会係として奮闘されている先生方の「喜びや大変さ」を共有することから始めて、「指導力の向上」へとつながるような交流と研究をめざしています。「生徒会指導はたいへん、でもおもしろい！」が広がることをめざしています。

今回の調査項目は、超多忙な現場のことを考え、ハガキ1枚で回答できるようにと『①公務分掌「生徒会係」の人数と係会議、②生徒会本部役員生徒の人数と本部役員会議、③主な行事と開催頻度、④生徒会の指導で感動や生徒の成長が感じられること、⑤生徒会指導でたいへんだったり指導方法などで知りたいこと』の5点に絞りました。3学期の冒頭、しかも短期間の調査にもかかわらず、15校の先生方から丁寧な回答をいただいたことに感謝を表したいと思います。

【調査結果から見えること】（紙面の関係でデータを紹介できません。詳細はお問い合わせを。）

- 1 公務分掌「生徒会係」会議が、定例的に持っていない状況があり、係「主担当」の先生に大きな負担がかかっている実態が見える。
- 2 生徒会「本部役員（生徒）」会議は、かなりの割合で定例化できていると判断できる。1年間の活動をリードしていくためには、本部役員の定例的な会議と意志統一が欠かせないと思うが、それゆえに担当教師の指導が極めてたいへんであることが見える。
- 3 各校生徒会とも、「行事活動」がその活動の大きな柱になっていて、生徒たちが行事活動を通して大きく成長していくことが実感されている。生徒たちの変革していく様子が指導担当教師たちの大きな支えになっていることがよく見える。
- 4 学校現場全体の多忙化の中で、行事活動に対する多くの教師たちの負担感が増している状況がある。教職員集団の協力を得るために、生徒会係担当が心を遣っている様子が見える。
- 5 初めての生徒会係として、「指導のノウハウ」あるいは「マニュアル」的なものが継承されていない、と感じているところも見受けられる。

### 【実践の交流と学習】

本来、生徒会活動（自主活動）は教科学習と並ぶ大切な柱です。県内外を問わず、生徒会指導の優れた実践の蓄積はあります。現在もさまざまな取り組みが展開されています。2010年度も、貴重な実践を通しての教訓や課題、ノウハウを『交流し学び合える場』づくりを引き続き追求していきたいと思えます。（文責：加藤彰男）